平成23年度国産水産物安定供給推進事業関係調査報告書
「サバ類産地魚価に影響を与える生産・流通・消費の動向」
（ダイジェスト版）

需給変動調整事業は、水揚げの集中による価格の一時的な低下に際して、漁業者団体などが、主要水産物について、買取・保管を行い、一定期間経過後、市場に放出することにより、水産物の安定供給に寄与してきた。

本調査は、多様に消費され、社会的に不可欠であるサバ類を対象とし、各種統計やヒアリング、生産者、消費者、学識経験者による計４回の委員会を通じて、産地から消費に至る価格形成動向を明らかにし、需給調整の必要性をまとめることとしたものである。

本報告書では、漁業、流通、消費のそれぞれの分野において、水産物の安定供給に向けて様々な努力や取り組みが行われてはいるものの、次のような需給の不安定化を招き、大量水揚時には価格を低落させ、漁業者の再生産をおびやかす要因が、従来にも増して多く存在することが確認され、本事業の必要性がますます大きくなっているものと思われる。

Ⅰ. 産地から消費に至る各段階における需給の不安定化要因の動向

1.漁獲の不安定性

サバ類の漁獲は、大中型まき網漁業が大宗を占め、近年は高いときにはその７割以上を当該大型漁業に依存している。そうした中で、日本遠旋の例でも見られるとおり、大中型まき網漁業はこれまで様々な合理化や再編努力により、経営面では改善がなされ、漁獲面ではTAC管理下に置かれているものの、自然条件とも相まって、大量漁獲時に集中的に水揚げせざるを得ないなど、近年に至ってもサバ漁獲の変動は解消される方向とはなっていない。

表1は主要産地におけるサバ類水揚量と変動係数の推移であるが、いずれの年も、月別水揚げの変動係数が高く、産地水揚の変動性が一貫して高いという特徴が把握された。

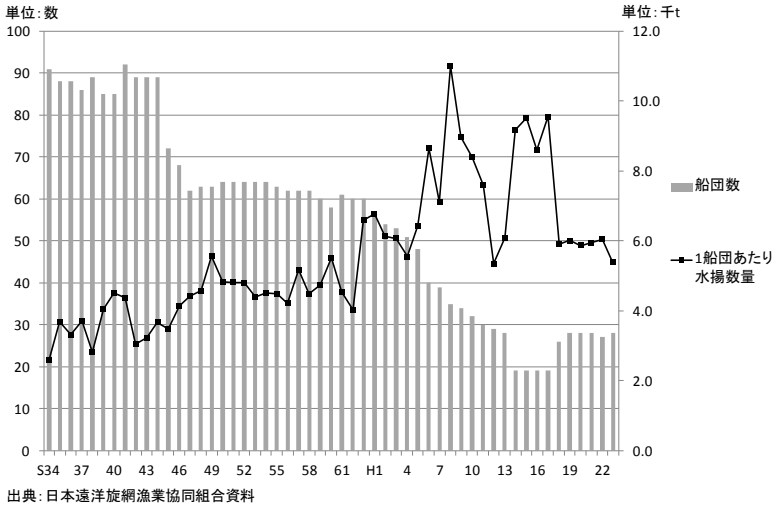


図1　日本遠旋組合員の船団数と1船団あたりの水揚量の推移

（参考）
エンマキの発足時に船団数が過剰であるとの判断から、自主減船を進めてきたこと、さらに廃業も併せて、その船団数は昭和 34 年の 91 から、平成 23 年には 28 船団まで減少し、昭和 34 年比の 30%まで落ち込む。船団数の減少に合わせて、１船団当たりの水揚量は増加して来たものの、平成 18 年以降は、1 船団当たり 0.6 万ｔで推移している。

表1　主要産地におけるサバ類水揚量と変動係数の推移

（単位：千t）

	H2	5	14	17	20	22
年間水揚量	220.2	638.7	252.8	528.5	449.5	434.4
月変動係数	0.527	0.878	0.64	0.433	0.497	0.647

出典：水産物流通統計、JAFIC資料
注：月変動係数=各年における月々の水揚量の標準偏差/月平均水揚量

また、特に太平洋沖では、高水温の影響とみられるゴマサバ資源量の増加がみられる。平成10年以降、ゴマサバの水揚げがマサバを上回る事態がみられる。一般的にはゴマサバはマサバよりも脂質が低く、消費者の評価は低い。産地市場においても同様でゴマサバの評価は低く、漁業者手取りの減少につながっていることは明らかである。さらに、マサバとゴマサバの漁獲を調整することは困難であり、サバの価格変動を助長させる要因の一つとなっている。

	マサバ		ゴマサバ	
	数量	価格	数量	価格
H19	133.1	103	61.5	65
20	120.2	92	59.3	79
21	125.0	90	51.9	57
22	127.1	86	56.1	61
23	103.8	108	81.2	69
平均	121.8	95	62.0	67

出典：JAFIC資料
注：選別しているマサバ･ゴマサバ分のみ

表2　マサバ・ゴマサバ水揚量と産地価格推移

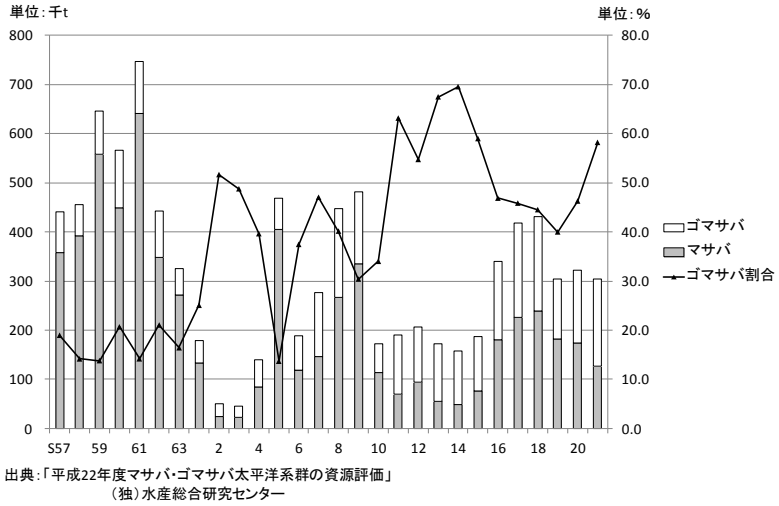


図２　太平洋におけるマサバ・ゴマサバ漁獲量推移

2.冷凍保管の限界と在庫変動の特徴

昭和40年代より水産物の冷蔵保管の技術と施設整備が進捗し、水産物を多角的に活用することができるようになり、消費者への安定供給の条件が拡大するところとなった。しかし、一方で、200カイリ体制移行と消費・需要側の変化の影響を受けつつ、冷蔵庫業の再編、合理化も進行し、産地水揚げの大幅増加変動の調整において十分な機能発揮がなし得ず、産地価格が不可避的に落ち込むような限界性があらわれる事態がしばしば起こっている。

また、在庫変動の特徴として、従来は産地では水揚げ状況に応じて在庫されていたが、近年は、産地サイドの事情というよりも、消費地サイドを意識した在庫となっており、月末在庫変動の著しい縮減傾向に見るように、大量漁獲時でも、一定の水準を超えるような在庫はしない方向が強まっている。

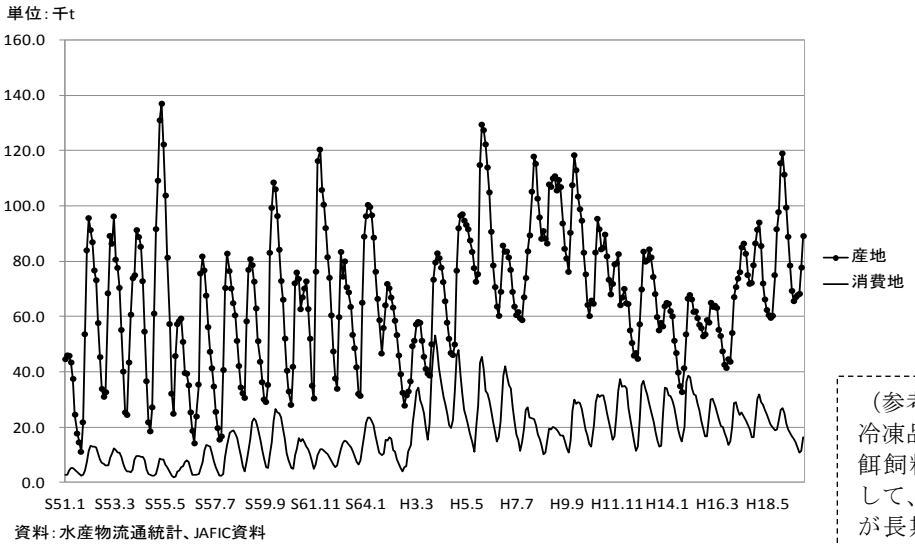


図３　サバ類月末在庫量推移

（参考）
冷凍品在庫量は、加工原魚、餌飼料等の需要動向を反映して、高まる傾向にあることが長期トレンドで明らかではあるが、産地、消費地とも、在庫量の月変動は著しく縮減する傾向を示しているので、在庫は専ら需要側における「定番化」の動向を反映した様相を示しているものと思われる。

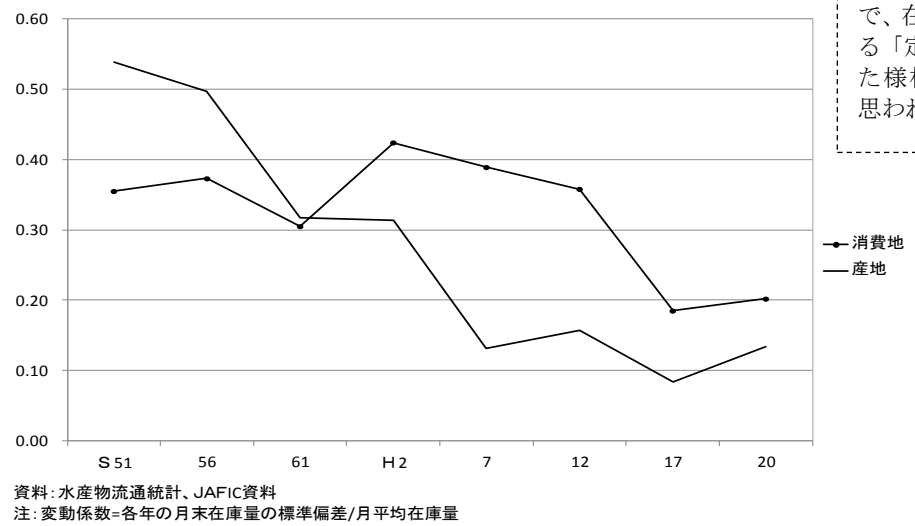


図４　サバ類における月末在庫量変動の経年変化

3.買い受ける側のリスクの増大（流通消費段階の事情の変化）

サバは漁業者に漁獲され、そのほとんどが産地市場に上場されて取引されている。産地市場では取引を買受業者の価格形成能力に頼ることとなっているが、近年は以下の要因も加わり、産地価格の下落が消費に至るまでの各段階で大きな損失を発生させる可能性を高めている。なお、ゴマサバの増加は市場の評価を含めた問題として買受業者にも影響を与えているものと思われる。

(1)サバ貿易のグローバル化

近年の動向として、サバは輸出が大きく増加している。輸出の価格は国内産地市場の価格との相関が強く、国内漁獲量の3割も占める量が輸出されることもあることから、水揚げ急増を吸収し得る影響要因として評価される。しかし、輸出は為替の変動や相手国の状況等に左右されやすく、国内産地市場の価格に予期しがたい影響を与えることが懸念されている。ただ、この動向はごく最近の動きでありこの検証は今後の課題として考えられる。

一方、常態化している輸入品はノルウェーが中心であるが、ノルウェーの漁期は日本の漁期よりも早く、国内水揚は輸入品の価格が決まってから行われることになることから、輸入価格の動向が国産サバの価格に影響を与えることが懸念されている。

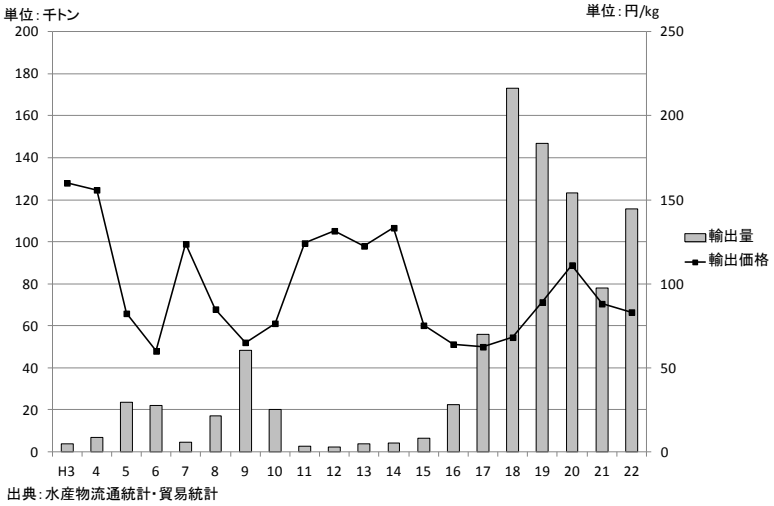


図 5　年別冷凍サバ類輸出量・価格推移

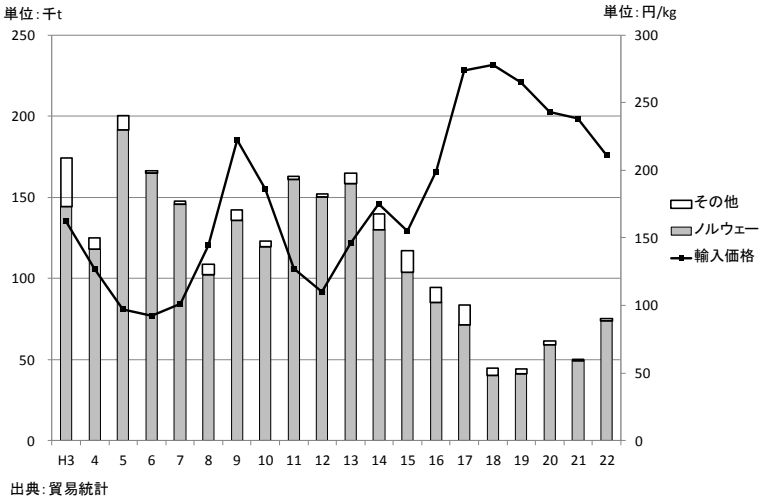
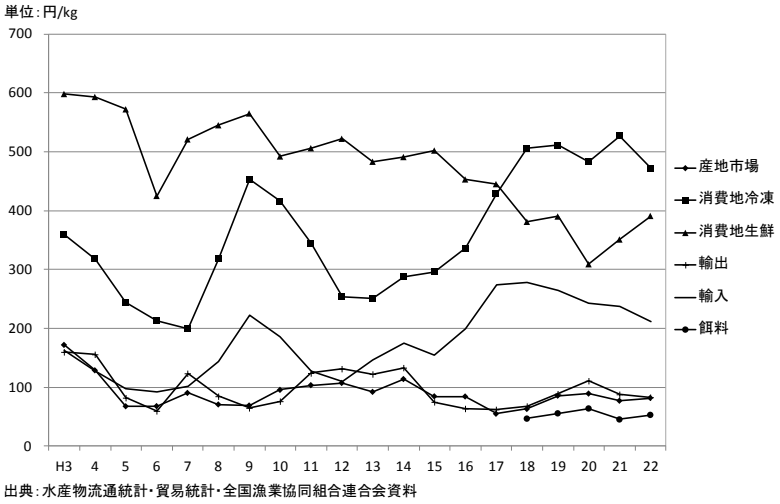


図 6　年別冷凍サバ類輸入量・価格推移



（参考）
サバ類の年間平均価格の推移をみると、産地市場、輸出、餌料価格はおおむね連動している。また、消費地冷凍価格と輸入価格も同様の変動がみられる。

図７　サバ類平均価格推移

(2)仲買・加工業者の経営変化

サバの消費は定番化により伸ばしてきていると評価される。一方で、従来加工業者は原料調達から製品化まで手配してきたが、現在は金融機関による融資の締め付けや合理化の動き等もあり分業化が進んでいる。こうした事情によって、加工業者が負っていたリスクの大半を、現在は仲買業者が負担することになり、仲買業者が漁獲に応じてサバを購入し続けることは困難となっている。

（参考）　サバ類食用仕向・流通動向

かつて産地の加工業者は、自らが産地市場でサバ類を購入し、選別を行い、加工原料を確保して加工を行うとともに、養魚用餌料の販売も手掛けていた。

近年の食用となるサバ類は、産地仲買・加工業者の分業が進み、おおむね以下の通り流通している。

○仲買業者：落札したサバ類を選別・冷凍保管し、必要に応じて、加工業者へ供給

↓

○加工業者：仲買業者から調達した原料をもとに、サバ類加工品を製造し、量販店へ供給

↓

○量販店：加工業者から供給された製品の販売

(3)餌料用原料の供給

大量漁獲時にはかつては養殖餌料によって大半が消化され、買受業者としては安定的な販売先であった。しかし近年は養殖業者の経営が厳しく、大量漁獲時には最終的な販売先としては不安定なものとなっている。一方、これを養殖業者にとってみると、輸出との関係もあり、仲買業者は安定しているところに販売する傾向にあることから、養殖業者にとって餌料の安定的な供給を得られにくい悪循環となっている。

表３　サバ類用途別出荷量・割合

（単位：千t，％）

		H3	8	13	18	22
実数	生鮮用	62.3	56.9	56.8	89.7	93.2
	ねり製品等	0.0	－	－	－	－
	缶詰	7.5	20.8	16.6	31.7	18.6
	その他食用加工品	59.7	121.6	64.3	196.6	105.9
	魚油飼肥料	0.8	6.3	6.0	14.2	4.6
	餌料	69.1	311.6	139.6	132.5	124.5
	計	199.5	517.3	283.3	464.8	346.7
割合	生鮮用	31.2	11.0	20.1	19.3	26.9
	ねり製品等	0.01	－	－	－	－
	缶詰	3.8	4.0	5.9	6.8	5.4
	その他食用加工品	29.9	23.5	22.7	42.3	30.5
	魚油飼肥料	0.4	1.2	2.1	3.1	1.3
	餌料	34.6	60.2	49.3	28.5	35.9
	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出典：水産物流通統計・JAFIC資料
注：調査漁港数は、平成3年38、平成8年33、平成13・18年32、平成22年31漁港

表４　ブリ類養殖業（個人経営体）の経営収支

（単位：千円）

	H13	14	15	16	17	18	19	20	21
漁労収入	73,117	80,478	90,077	66,248	67,848	86,399	85,457	89,438	76,832
漁労支出	81,270	77,662	77,497	63,269	66,357	80,623	83,799	99,513	79,882
（餌代）	53,651	50,825	50,107	40,427	44,285	53,248	53,336	60,389	45,276
（種苗代）	12,640	12,958	13,267	12,015	9,326	14,300	16,595	19,491	14,887
（減価償却費）	3,625	3,605	3,864	2,666	2,936	3,794	2,968	4,236	2,936
漁労収支	△8153	2,825	12,580	2,979	1,491	5,776	1,658	△10075	△3050
餌代支出割合	66.0	65.4	64.7	63.9	66.7	66.0	63.6	60.7	56.7

資料：漁業経営調査報告

Ⅱ.需給の不安定化要因が多く存在する中において需給変動調整事業が果たす役割

今回の調査でも、関係者からのヒアリングによると、本事業は一定量を調整保管することにより過度な価格変動を抑制する効果を発揮したものと評価された。

さらに、需給変動調整事業の果たしている機能をあらためて分析してみると、サバについては、全国の年間漁獲量の割合から算出するとわずか4%程度の買取割合ではあるが、買取期間中の市場別の割合を算出すると20%を超えるところもみられ、また、瞬間的には上場されたサバの全量を応札することもあることから水揚げ集中時の価格の下支えに大きな役割を果たしていると推定される。

また、流通、消費段階においても、全国の在庫に占める本事業の割合をみると、各産地の冷蔵庫に主に水産加工に仕向けられるために保管されたサバ（入庫量）に占める本事業の割合は最大で 29%と全国の相当量を占めていることがわかった。さらに、冷蔵庫から持ち出されたサバ（出庫量）に占める本事業の割合は 53%もあり、需給のひっ迫期における役割の大きさがうかがえ、本事業は、加工業者・養殖業者への安定供給にも大きく寄与している。

表 5　平成 22 年度事業主体ごとの主な買取市場別実績

（単位:t/%）

事業主体	市場名	買取実施期間	買取期間中水揚量	買取実績	買取割合
全漁連	銚子	H22.11～2月	59,868	5,619	9
山陰旋網	境港	H22.10～2月	18,307	3,458	19
日本遠旋	松浦	H22.10～3月	39,927	8,750	22

出典:おさかなひろばHP

表 6-1　平成 22 年サバ需給変動調整事業実績

（単位:t）

	H22.10	11	12	H23.1	2	3	4	5	6	7	8	計
月始在庫量	0	810	5,693	13,085	17,425	18,793	17,515	10,367	4,823	2,167	1,854	92,532
入庫量	810	4,994	7,392	4,838	2,107	254	0	0	0	0	0	20,395
出庫量	0	111	0	498	739	1,533	7,148	5,543	2,655	313	1,853	20,393
月末在庫量	810	5,693	13,085	17,425	18,793	17,515	10,367	4,823	2,167	1,854	0	92,532

出典:魚価安定基金資料

注:在庫期間(月始在庫量の合計/入庫量の合計)=4.5ヶ月

表 6-2　産地月別サバ類の在庫状況

（単位:t）

	H22.10	11	12	H23.1	2	3	4	5	6	7	8	計
月始在庫量	34,422	46,162	59,302	65,672	63,585	60,886	50,090	46,832	43,705	37,715	33,876	542,247
入庫量	35,858	38,885	32,178	16,475	13,045	12,136	10,718	9,084	8,451	8,061	9,299	194,190
出庫量	24,118	25,745	25,808	17,463	15,744	23,080	13,540	12,827	13,848	11,503	11,098	194,774
月末在庫量	46,162	59,302	65,672	63,585	60,886	50,090	46,832	43,705	37,715	33,876	32,400	540,225

出典:冷蔵水産物流通調査

注:在庫期間(月始在庫量の合計/入庫量の合計)=2.8ヶ月

表 6-3　事業の占める割合

（単位:%）

	H22.10	11	12	H23.1	2	3	4	5	6	7	8	計
月始在庫量	0	2	10	20	27	31	35	22	11	6	5	17
入庫量	2	13	23	29	16	2	0	0	0	0	0	11
出庫量	0	0	0	3	5	7	53	43	19	3	17	10
月末在庫量	2	10	20	27	31	35	22	11	6	5	0	17

出典:魚価安定基金資料